

広域型生活支援コーディネーターの主な活動について（令和3年11月～令和4年1月）

1. 市域での高齢者生活支援

①助け愛隊

緊急事態宣言が解除され活動再開。

- ・地域と連携した助け愛隊活動の実施支援（千三地区）
⇒千三地区在住者の助け愛隊活動の依頼については地域でボランティアを募り活動することになる。
- ・地域版助け愛隊のスタート（山三地区、吹一地区単一自治会）
⇒助け愛隊活動を参考に地域オリジナルの活動を山三地区（つながり隊）、吹一地区単一自治会で発足。

②元気・健康フォーラム 2021 の開催

- ・詳細は資料2 資料3参照

2. 地域での高齢者生活支援

①高齢者対象のオンライン講座の開催をサポート

オンラインを活用した「つながり作り」「情報取得」「多様な団体との連携」を意識して調整を行った。

- ・開催:のべ12地区 のべ14回(検討含む)
- ・連携団体:地区福祉委員会、大学生ボランティア、地域包括支援センター、福祉事業所など

②各地域の高齢者生活支援体制の整備をサポート・調整

地域特性や地域課題を検討する「地域での意見交換会」の開催に向けてCSWと連携して調整した。

- ・五月が丘地区(福祉委員会、大阪大学教員・学生、NPO、地域包括支援センターと高齢者の取組検討)
⇒学生作成「よりそい隊通信」について検討。また地域課題についても意見交換を行った。
- ・津雲台地区(連合自治会、福祉委員会、大阪大学、薬局、福祉事業所、地域包括支援センターとの意見交換)
⇒「坂道が多く体操の場等にでかけるのが大変」という意見から、「ひろばde体操」の場所を追加する等の意見が出た。今後、介護予防推進員交えて企画会議を行うことになった。
- ・吹二地区(福祉委員会、地域包括支援センターと意見交換)
⇒「いきいきサロン」「ふれあい昼食会」担当の福祉委員も加わるなどメンバーを拡大。引き続き意見交換を実施していく。
- ・豊一地区(福祉委員会、高齢クラブ、地域包括支援センター、福祉事業所と意見交換)
⇒新たに高齢クラブ、福祉事業所も加わり高齢者の生活課題について意見交換を実施。ICTツールを活用して「集いの場」の無いエリアを共有。今後の対応を検討することになった。
- ・片山地区(福祉委員会、高齢クラブ、民生委員会、連合自治会、地域包括支援センターと意見交換)
⇒コロナ禍前に意見交換を行って以来の開催。改めて高齢者の生活課題等を共有。
- ・佐竹台地区(福祉委員会、福祉施設、地域包括支援センターと移動支援に関する打ち合わせ)
⇒2年に渡って関係団体・機関で「顔の見える関係」の構築や地域課題を検討。福祉委員会主催「ふれあい外出配食」の拠点が「遠方かつ坂道のため参加しにくい」との高齢者の声を受け、地元福祉施設と外出配食時の移動支援実施に向けて検討した。

3. 地域ケア会議との連携・連動

- ・地域ケア会議で議論した地域課題について検討(12/23)

⇒地域ケア会議で買物支援について意見交換を実施した地域があり。今後、出された意見を地域団体等と意見共有する場の設定等について地域包括支援センター、社協で検討した。

- ・地域ケア会議事務局会議(12/23)

⇒すいたの年輪ネットの取組み、各地域での高齢者生活支援に関する意見交換について情報共有した。

4. その他

- ・吹田市高齢者生活サポートリスト「シニア世代の活動場所 編」改訂版 資料5 を発行(12/15)

- ・生活支援コーディネーター～耳より情報局～(特別号)を発行(12/15)

- ・片山地区火災避難高齢者の生活支援(12/29～)

⇒年末に発生した火災で25世帯(主に一人暮らし高齢者)が避難。福祉ニーズが多岐に渡るため吹田市社協施設連絡会「吹田しあわせネットワーク」と連携して、高齢者の生活支援をコーディネートした。